

EWA/WEF/JSWA 特別会議に参加



研究第一部 研究員
宮瀬 文裕

地震による下水道被害の 影響について発表

この会議は、EWA（欧州水協会）、WEF（米国水環境連盟）、JSWA（日本下水道協会）の3者協定に基づき、2001年以降3年ごとに開催され、下水道を取り巻く最新の課題等について討議し、各国が抱える諸問題について理解を深め、国際的な視点から情報交換を行うことを目的としています。今回は3回目の会議で、「21世紀のプレッシャーに対応する持続可能な下水道管理」をテーマに、ドイツのミュンヘン市において、5月5日～9日の5日間開催され、①気候変動と都市下水管理、②社会経済的プレッシャーと都市下水管理、③自然災害等のプレッシャーの軽減技術の3部門で、口頭発表25編、ポスター発表22編が発表されました。日本からは、国土技術政策総合研究所、地方公共団体、日本下水道事業団、下水道協会、民間企業、および下水道機構から約20人が参加し以下のような発表を行いました。

○口頭発表：1編

「大規模地震による下水道被害の影響に関して」
研究第一部 宮瀬研究員

○ポスター発表：5編

「シミュレーションを活用した都市浸水対策の計画策定手法についての研究」 研究第一部 秋葉研究員
「下水道管における改築および修繕の体系化に関する研究」 研究第二部 三浦主任研究員

「下水道における新エネルギー技術の導入・評価に関する研究」 研究第二部 渡邊研究員

「雨水ポンプ場ネットワークによる雨水排水機能の向上と安定化に関する研究」 資源循環研究部 吉田主任研究員

「日本における下水汚泥資源化・先端技術誘導プロジェクトの取り組み」 資源循環研究部 藤川研究員

マンホール浮上のビデオも

口頭発表では、大規模地震で下水道施設が被災した結果生じる派生的な被害（伝染病の蔓延、交通障害等）について、その影響を市民にわかりやすく伝えるため、被害額のような定量的な評価を行う手法の検討結果について報告しました。なお、日本での地震被害を理解していただくため、液状化によるマンホールの浮上を実験装置で再現したビデオも上映しました。ポスター発表の来場者は、地元の方はもちろん、中近東、アフリカ、アジア等各国の方が見えられ、興味のある内容について熱心に質問や意見交換をされておりました。

各研究員にとって、発表や海外の技術者との交流を通じ、多くの経験や発表のスキル等の知識を獲得した国際会議でした。なお、水分野の世界最大の見本市「IFAT2008」が同じ会場で併催されており、こちらでも最新の技術情報の収集、意見交換を行うことができました。



口頭発表の状況



ポスター発表での意見交換